

第2回 長久手市の環境対策の取組みを考えよう！

第4次長久手環境基本計画の改定に向け、行政職員の立場から、長久手の環境対策の取組みのアイデアを把握するため、2年目の若手職員による第2回ワークショップを令和元年12月12日（木）午後開催しました。

12名の若手職員が「地球温暖化対策チーム」、「廃棄物対策チーム」、「生物多様性対策チーム」に分かれ、それぞれのテーマでの取組みアイデアについて検討しました。

第2回職員研修 長久手市の環境対策の取組みを考えよう！を開催

■日 時：令和元年12月12日（木）
13:30～15:30

■会 場：長久手市役所北庁舎2階
第5会議室

■参加者：12名

プログラム

- 13:30 ① 開 会
・開会あいさつ
・本日のプログラムの説明
- 13:35 ② 前回の振り返り
・第1回ワークショップの結果
・市民アンケートの結果概要の紹介
- 13:40 ③ 長久手市の環境の取組みを考えよう その1
・「地球温暖化対策」、「廃棄物対策」、「生物多様性対策」の3つのテーマに分かれ検討
- 14:20 ④ 長久手市の環境の取組みを考えよう その2
- 14:50 ⑤ 長久手市の環境の取組みを考えよう その3
- 15:10 ⑥ 発表
- 15:25 ⑦ まとめ

① 開 会

最初に環境課の富田課長から、第2回ワークショップの開催にあたってのあいさつを行いました。

長久手市の環境対策として、どんなことをしていくのか、今回は少し違った方法で検討していきたいと考えているので、積極的に検討、提案をしていただきたいとお伝えしました。

また、事務局の環境課より、本日のプログラムについて説明を行いました。



② 前回の振り返り

ここからは一般社団法人地域問題研究所のスタッフに進行をバトンタッチし、まずは前回の第1回ワークショップで検討した内容について振り返りました。特に長久手の環境の「良いところ」、「悪いところ」、皆さんが考えた「長久手市版の環境目標」などについて振り返りました。

また、事前課題として皆さんに考えてきてもらった環境対策の取組みアイデアについて簡単に紹介しました。

さらに、環境対策の取組みを考える上で参考にしてもらうため、今年8月に16歳以上の市民2,000人を対象に実施した「市民アンケート」の調査結果の概要についても紹介しました。

③ 長久手市の環境対策の取組みを考えよう！ その1

「地球温暖化対策」、「廃棄物対策」、「生物多様性対策」の3つのテーマのグループに分かれ、テーマの問題・課題と、課題解決に向けた取組みアイデアを、事前課題の結果や市民アンケートの結果などを踏まえながら考えていただきました。



④ 長久手市の環境対策の取組みを考えよう！ その2

各チームで一人だけ代表者を残し、他のメンバーは他のグループへ席を移動していただきました。

新しいメンバー構成で、取組みアイデアを検討し、新たな視点で幅広い意見や提案を追加していただきました。



⑤ 長久手市の環境対策の取組みを考えよう！ その3

全員が最初のチームに戻り、追加提案された内容などを確認しながら、それぞれのチームで提案内容のとりまとめを行うとともに、重点的に取り組んでいくアイデアの絞り込み（投票）などを行いました。



⑥ 発表

各グループで話し合った「環境対策の取組みアイデア」について、各グループから発表していただきました。

「地球温暖化対策チーム」からは、「毎日24日に、24時間消灯デイを導入する」、「事業所であいのり通勤を実施する」、「市役所で週休3日制を導入する」、「市役所のエネルギー消費の見える化を行う」、「自転車の利用促進に向けた補助の実施」など、ライフスタイルや働き方、移動手段などを見直していくアイデアがたくさん出されました。



「廃棄物対策チーム」からは、「学生がごみの分別をしやすいようにごみ袋を工夫する」、「アプリを利用してごみが分別できているかを確認できるようにする」、「紙ごみ減量のためにヤギを飼育する」、「書類の電子化を徹底する」など、ごみの分別をやすくすること、正しい分別かを確認できるようにすること、紙ごみを減らすなどのアイデアがたくさん出されました。



「生物多様性対策チーム」からは、「長久手の生き物を知れる機会を作る」、「外来種を捕獲などして減らす」、「おとな塾として、生き物を学び、体験できるイベントを実施する」、「生き物に詳しい人を増やす」、「自然環境の保全活動へ参加するメリット（食べ物イベント）を考え、PRする」など、生き物を知り、イベントを通じて外来種の駆除や自然環境保全の活動などを実施し、生き物に詳しい人を増やしていけるようなサイクルを作るようなアイデアがたくさん出されました。



⑦ まとめ

グループの発表で出された内容をもとに、地域問題研究所のスタッフ及び環境課からそれぞれ講評・まとめをし、環境対策の取組みは我慢して取り組むのではなく、メリットもあって、楽しくやれる取組みにして、継続できるようにしていくことが大事であること、単に環境面だけの効果でなく、福祉、教育、ライフスタイル、働き方などの他の分野の取組みにもつながっていることなどが再確認されました。

最後にアンケートにも協力いただき、2時間にわたる第2回職員研修が終了しました。



◆次回は、2月10日（月曜日）午後1時半から開催します。

◆第3回は重点事業や市役所の環境配慮行動などを考えるワークショップを予定しています。

【事務局】 長久手市環境課 0561-56-0612 担当：嵯峨、佐藤、笹山

Q1 環境への理解は深まりましたか？

今回の研修を通じて環境への理解は、「とても深まった」が3名、「ある程度深まった」が8名、「どちらともいえない」が1名となっています。

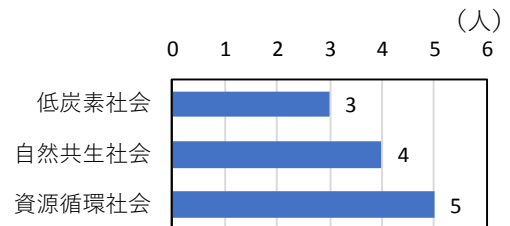


Q2 今日のワークショップを通じ、気になった言葉を3つ書いてください。

- あいのり通勤 (7名) / ●おとな塾 (5名) / ●外来種、外来種なべ (4名) /
- エコポイント (2名) / ●タカを飼う (2名) / ●週休3日制 (2名) / ●見える化 (2名)
- その他 1名ずつ
- 「電気自動車」、「排気ガス削減」
- 「同じ袋で分別」、「ゴミ袋の工夫」、「廃棄物」、「分別」、「アプリ利用」、「ヤギを飼う」
- 「生物博士」、「多様性」、「メリット」

Q3 最も興味のあるテーマに○をつけてください。

最も興味のあるテーマは「資源循環社会」が5名、「自然共生社会」が4名、「低炭素社会」が3名となっています。



Q4 本日のワークショップについてのご意見・ご感想をお聞かせください。

- ・自分たちのグループだけで話し合うだけでなく、他のグループの意見も聞くことができたことが良かったです。
- ・途中、グループを変わり意見を出し合うのはアイデアの幅が広がり良かった。
- ・やったことのないワークショップのやり方だったので、意見の広がり方や違う視点などが取り込まれ、とても面白かったです。事前課題があることで他市の計画なども見たりでき、とても勉強になりました。
- ・ワークショップの方法がこれまで経験したことが無かったので面白かったです。突飛なアイデアがどこまで実際に実施可能なのかが気になりました。
- ・終盤で気になった意見を絞り込んだ時に、最初バラバラに見えた意見がつながってまとめることができて気持ち良かった。
- ・生物多様性対策のグループだったため、事前課題ではイメージしづらいことが、少し具体化された気がする。
- ・色々変わったイベントができそうな「おとな塾」が気になります。
- ・今日のワークショップを通じて感じたのは、環境問題の解決のための取組みが、それ以外の取組みにもつながるのだなということです。働き方や公共交通の利用者の低調など、あわせて解決できる問題が多くあるのだと感じました。
- ・様々な目線から問題に取り組み、自分では思いつかなかった発想も得られた。
- ・個々の生活スタイルを改善させることで、大きな改善へとつながると思います。いかに個々の方に関心を持たせるきっかけづくりが、行政に求められていると思います。行政間で考えるだけでなく市民からアドバイスをもらうのも良いかと思っています。
- ・自分では思いもよらないような意見に沢山触れることができ面白かった。どのチームも“見える化”についての意見が出ていたのが印象的だった。
- ・もう少し他班との交流の時間が欲しかった。意見を深めたかった。

第2回 職員研修 ワークショップ 各グループのまとめ

地球温暖化対策チーム

関心の高かった取組み

項目	問題・課題		課題解決に向けた取組みアイデア
ライフスタイル	電気の使用量が多い	⇒	スケルトンハウス
	休日の電気使用量	⇒	家に閉じこもらない。クールシェア、ウォームシェア、時間をシェア
	エネルギー削減	⇒	24時間消灯デイ導入（毎月24日）
	エネルギー削減	⇒	太陽光パネル設置必須化
	エネルギー削減	⇒	アパートや企業、施設の入り口にも現在と今月の分を見える化する。⇒良い地区などは発表、⇒アプリなどで確認（さんあ〜る）
	市役所の環境への取組みが見えない	⇒	市役所のエネルギーの見える化
	排ガス削減	⇒	公用車をほぼ電気自動車に。市外へ行く時だけ電気自動車ではなくてよい。
働き方改革		⇒	週休3日制導入（AI、ロボティクス）
		⇒	サマータイム導入
公共交通に乗る	リニモ利用率が低く、車利用が多い	⇒	リニモのパッケージ猫バス、入場料割引、Nバスも猫バス
	排気ガスの削減	⇒	リニモ・Nバスと大型商業施設とのタイアップ（例：IKEAのソフトクリーム）
	排気ガスの削減	⇒	Nバスのルートやダイヤの見直し
	排気ガス多い	⇒	歩いて移動。ド●クエウォーク、ポ●モンGOウォーク
	車からの排出ガスが多い	⇒	自動車税をあげる。電気自動車などの環境にやさしい車のみ税率を下げる
エコポイント	あいのり通勤	⇒	会社が同じ人で住居が近い人同士と一緒に通勤した人にはエコポイントを付けてポイントが貯まったら何か商品を渡す（マナカ）
楽しく歩く	CO2削減	⇒	植物をたくさん植える（ケナフ）
自転車がかっこいい	排気ガスによりCO2排出が多い	⇒	市内のいたるところに日東工業の電気自動車専用充電器を設置する（コンビニなど）
	車が多く、渋滞が多い	⇒	自転車利用者を増やすために、自転車への補助金をつくる
	自転車利用の促進	⇒	自転車道の整備
	自転車利用者が少ない	⇒	自転車競技大会の開催

項目	問題・課題	課題解決に向けた取組みアイデア
ごみ袋の工夫	学生等がごみの分別ができていない	⇒ ごみ袋に大まかな分別表記をする
	ごみ袋を買うのが大変	⇒ 1種類のごみ袋で対応できるようにする
いいね！賞シール	ごみの量が多い(事業所、会社)	⇒ 基準を決め、長久手市の「◎ごみシール」を貼る、配布「いいね賞シール」
	地域によってごみの量に差がある	⇒ 地域ごとに回覧などで他との違いを認識してもらう
分別の確認	分別	⇒ ごみ袋の中身をチェックする人を作る(衛生委員)
	分別がされていない	⇒ 正しい分別がされていないごみ袋は回収しない
	ごみの出し方が汚い	⇒ ごみを出す場所に防犯カメラの設置し、誰が出したかを把握する
	ごみの分別ができていない、知らない(特に学生)	⇒ 捨てる場所にわかりやすいシールなどを貼る。立ち当番など、アパート、地区全体で意識して確かめる⇒良い地域は広報で発表
	業者でなく市民で回収	⇒ 資源ごみなどは地域の人でエコハウスまでごみをまとめて運ぶ。運んだらポイント
分別の周知	学生が分別しない！	⇒ 大家さんや住宅会社に協力してもらい、入居時に案内する
	ごみを出す日がわからない	⇒ マンションの入口に回収日を貼っておく
リサイクルのために	人口増加に伴うごみの増加	⇒ リサイクルショップ、フリーマーケット、フードドライブの利用を勧める。開催日の宣伝、利用でポイントが付くなど
	ネット販売の利用	⇒ いらないものをごみでなく、売ることでごみを減らす
	何でもかんでもごみと考える	⇒ メルカリ等のフリマアプリの活用、フリマイベント
	ごみの資源化	⇒ 資源化できるごみを出す際に、しっかり分別できているかを写真を撮り、アプリでポイントがもらえるようにする(しっかり分別ができていた場合)
	ごみ対策(削減)	⇒ 廃材リサイクルのおしゃれなインテリア(カルトナージュ、牛乳パック工作など)を集めたショールームを作って展示する
オリジナルエコバック	スーパー、コンビニのレジ袋がごみになる	⇒ 市のオリジナルエコバックを作る(使いたくなるデザインで)
ペーパーレス	ごみの削減	⇒ 書類の電子化
	ごみが多い	⇒ ペーパーレスにする。新聞
動物の飼育	カラス対策	⇒ タカの飼育
	ごみ削減	⇒ ヤギの飼育
その他	ポイ捨てが多い	⇒ 公園など地域にごみ箱を設置し、みんなで考える
		⇒ 施設のごみ箱を撤去する。ごみの持ち帰り
	カラス、猫のごみ荒らし	⇒ 戸建てなどの住宅は家の前に置いているが、各地区でごみを出す場所を決めて、ごみを出す。業者も回収しやすい
	不法投棄対策	⇒ 捨てられる場所に人が集まる仕組みを作る
	市役所の消耗品にリサイクル品を採用	⇒ エコでない商品の方が安いことが多いので、予算(消耗品費)をぎりぎりにしない

項目	問題・課題	課題解決に向けた取組みアイデア
生き物を知る	どんな生き物がいるのかわからない	⇒ 楽しく知れる機会があると良い。アプリ、ゲームなどで。
	長久手の生き物がわからない	⇒ イベントで写生大会を実施するなど、調べるきっかけを作る
	希少な動植物の減少をどう防ぐか	⇒ 種類・適した環境などの勉強会。ゲーム形式やクイズ大会などにして楽しく参加できるようにする
外来種を減らす	外来種の増加	⇒ 外来種捕獲大会
	外来種がわからない	⇒ 掲示板等で周知。写真を撮って送ると教えてくれるといったサービス
	外来種が多い	⇒ 外来種を食べる。あぐりん村に外来種カフェ
	外来種の対応	⇒ 外来種パーティ。鍋、つまみ、乾物、スイーツ
	外来種が増える	⇒ 外来種が影響を受けない場所や環境を整備する
	新たに外来種とならないように、ペット飼育できなかつた場合の対処方法	⇒ 相談窓口や購入できる店舗にて購入時に説明など
ペット	作物を荒らすイノシシとの共存	⇒ 柵などで人とイノシシの領域を分ける。イノシシに必要以上に関わらない
	ペットの相談先がわからない	⇒ 飼育困難になり、自然界に放棄してしまうため、相談窓口をつくる
イベントへの参加	野良猫	⇒ むやみに餌をやらない。厳罰化
	具体的な取組みがわからない	⇒ 体験型のイベント開催。里山の探検とか
知識・情報を深める	イベントをやっても人が集まらない	⇒ スマイルポイント対象イベントを増やす。イベントに参加するメリットをもっと押し出してPRする
	生き物系のイベントは子どもに人気で大人だけで参加しづらい気がする	⇒ 大人だけでもOKの生き物イベントの開催。生き物発見イベント、絵を描くイベント、子ども先生に大人が教えてもらう
生き物に詳しい人を発掘し、増やす	外来種を守るための行動がわかりにくい	⇒ 植物ツアーなどで知っている人から知識をもらう。ホームページやSNSで周知したり、駅近くにポスターなどで宣伝活動
	自然に興味を持ってもらう	⇒ おとな塾をつくる
	転入・転出者が多く、長久手市の自然の変化がわからない	⇒ 昔から住んでいる方の語り部。ビフォー&アフターの自然の写真で周知する
	生き物に興味を持ってもらう	⇒ エコハウスで生き物の展示、ふれあいコーナーの設置
	生物多様性に詳しい博士の発掘	⇒ 市内に詳しい人はいると思うので、イベント開催？詳しくなくても好きな人は沢山いるはず
	詳しい人とそうでない人の差が大きい	⇒ 詳しくない人に少しでも知ってもらうワークショップやイベントの実施
自然の維持管理	生き物の知識が乏しい	⇒ テーマパークを作る。学校にもそのような場所を作る（南小、わくわく池）
	市街地の生物多様性を他人事で考えている人が多い	⇒ 植物を市民へ強制的に配る
	河川の汚染	⇒ メダカ、ホタルの放流をして、川を綺麗にするという意識づけ
自然の維持管理	手入れ不十分な川や森がある	⇒ 田んぼアートのようなアートを取り入れ、汚さないという気持ちへ変化させる
	未管理な自然がある	⇒ 管理する人を募集し、その代わりに何かをあげる

★おとな塾をつくる！

①食べ物イベントで多くの人を集める！

- ・長久手探検イベントで、外来種を捕獲し、外来種を食べるイベントを開催
- ・竹を切る里山管理作業を行い、切った竹で流しそうめんを行う
- ・長久手の米で酒造りを行う

②生き物に詳しい子ども博士に教えてもらう

③色々な挑戦をすることで、詳しい人が増える